

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第 2 号

令和4年 8月 1日
横浜市小学校教育研究会
会長 徳江 武司
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 池田 翼

【提案日時】

7月6日（水）

提案 田倉 直哉 先生（茅ヶ崎小）

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 福田 恭祐 先生（磯子小）

記録 伊藤 夏芽 先生（永野小）

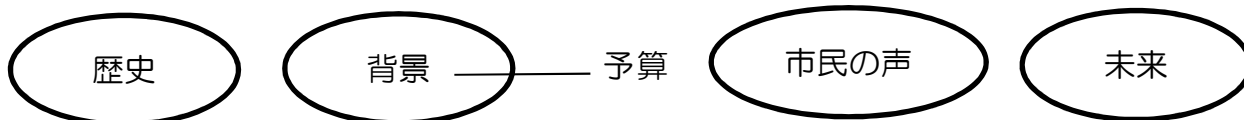
1 提案内容

単元名 「横浜市が実施する新たな「ハマ弁～みんなで食べればおいしい！中学校給食～」

2 提案者より

給食室の工事に伴い、7月から実際に中学校給食を食べることから子どもにとっても身近な教材となる。「中学校は、お弁当のイメージがあるけど・・・」というギャップから学習を展開していった。中学校給食の計画から実施までの過程に重きを置くために、資料の活用方法や発問について工夫したかった。

視点① 子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり



・予算の分配に着目し、政策との関係性に繋げていくと、使用方法や効果について注目しやすい。→それに繋がる意見も多くなる。

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味等に迫る授業づくり

様々な背景がある中で「ハマ弁」から中学校給食に変わり、子どもたちの中にあるギャップから学習問題をつくりあげ、本気の学習問題まで至った。毎時間の学習を積み重ねたからこそ、ずれに着目して疑問をもち、問題解決への切実感を高めた。中学校給食は良い面も多い中、現時点では提供は4割程度が限界と言われている。その中でも、なぜ横浜市は進めているのかと本気の学習問題を設定した。

→市民の声、横浜市の声、学校現場の声など、折り合いをつけて学習を進めていく難しさ

2 協議会

主に視点② 本時について

- ・歴史、背景などが多くあり、どこに視点をむけるのか難しい。
→教師が視点を定めていくと、子どもの根拠に基づいた意見が出やすい
- ・中学校給食からどのように政策に繋げていくか難しいが、予算に目を向けると横浜市の取り組みに着目しやすいのではいか
- ・資料提示のタイミング
→子どもが本当に必要としているのかみとり、それにあつた資料を必要な時に提示したい

<講師の先生より> 菊名小学校 野間 義晴 校長先生

子どもにとって身近さもあるが、教材化するのがとても難しい。政治の単元は、確かな理解（正しい情報）に基づいて政治を捉えることが大切。食育、地産地消、負担軽減など視点が多くある中、どこに重点をおくかで学習展開が大きく変わる。予算について着目したいときには、予算の使われ方や効果の分かる資料を提示し、子どもがどう反応するかみとり、その姿から政策に繋げていきたい。学習前と学習後で考え方がどう変化したか見て、変容を価値づけていくことが大切である。